

## オーラルヒストリー報告

史料室では2010年度にオーラルヒストリーの取材を行ない、中高部の学内寮であった東寮(現存せず)の舎監を務められた2人の先生方からお話を伺うことができました。どちらの先生も神戸女学院中高部を卒業されているので、お話の中には舎監としてだけではなく、学生時代のことなど、多岐にわたる内容が含まれていました。今回は東寮についてのことに限定して、聞き取りの内容をまとめて報告させていただきます。

取材させていただいた先生について簡単にご紹介します。

### 永井 昭子(旧姓・二宮)先生(62保65)

1987年度から1991年度まで舎監をお務めになりました。2010年3月26日に先生の岡田山のご自宅で聞き取りを行ないました。二宮源兵先生(元中高部長)のご令嬢で、長く神戸女学院の谷門側裏手にお住まいでしたが、2011年12月1日、急逝されました。天上の平安をお祈り申し上げます。

### 村田 禮子(旧姓・源田)先生(71)

— 東寮最後の舎監で、1991年度から1996年度までお務めでした。2010年3月11日、神戸女学院図書館館長室で聞き取りを行ないました。

先生方のお話から、中高部寮生の生活や、東寮が創立時からの伝統を受け継ぎ、最後まで教育寮としての姿をとどめていたということが伺え、学内にある教育寮の意義を考えさせられました。寄宿学校として始まった神戸女学院の原点がここにあったように思えます。

(文責・佐伯裕加恵)

## 永井先生

- 就任の経緯について。

女子を育てた経験があり、クリスチャンでもあるし、神戸女学院のいろんなことに詳しいということ、学校の近くに住んでいるのは大事な条件だから来て助けて欲しいということで、加藤民雄先生(元中高部長)に頼まれた。就任の1ヶ月くらい前に急に決まった。

- お勤めの経験はなし。

「専業主婦。日曜学校の先生したこともない。」

- 就任に当って鈴木民子先生(前任者)に話を聞きにいった。

「〔寮に〕来ていただいて、ちゃんとお部屋にいていただいたら、ここの子は賢いですから何でも教えてくれて楽なもんです。休日が2日ありますから、その日は自由にされたらいいです」と言われた。特に具体的な引継ぎはなかった。

- 舎監の仕事は、パートの人が週2日来て雑用をしてくれた。

「〔私の仕事は〕生徒の見張り、それから外出のときは必ず居て判押さなきゃいけない。認めないとね、〔外出を〕。それから電話番。病気になったとき付き添う。今のように皆が〔予防接種の〕注射受けませんでしょ。だから1人なるとザーツとなるわけ。病室っていうのが1つとってありましてね、そこに生徒移して、〔その部屋の隣の部屋との間のドアを開けて〕そこに寝るわけ。だから一晩でも起きてなくちゃいけないわけ。」

「お休みというのはほとんどできなかった。鈴木先生は京都に住んでらしたから、必ず朝起きて、ご飯皆と一緒に食べてから夕方のご飯まで帰られたみたいだけどね。ちょっと忘れたんですけどね、火曜日と金曜日はダメだった。金曜日は外泊の子が多いから。〔休みは〕月と木だったかな。朝は皆と食べるでしょ。それで何かしてるうちに宅急便は来る、それから電話はなるとかいったら、やっぱりおらなきゃいけない。その頃子機もないし、携帯電話もないし。電話、窓開けて、電話が鳴ったらわかるようにして。」

- 舎監の出勤簿は中高部の事務室にあった。

「必ず朝、事務所に印鑑押しに行かなくちゃいけない。」

### ・寮の行事

「お雛様必ずしたですよ。お雛様、日本的なものして、それから七夕もするわけ。クリスマスはもちろんしましたね。ハロウィンはね、変装。仮装ゲームがあるわけよ。私も何かいっぱいさせられた。私はまるきり変身なんかしなかったけど。それからお誕生パーティーは一月まとめて。それで栄養士してらした池田〔芙美子〕先生に、今月のお誕生会は何人ですと言うのね。出てくるものは一緒でしたけども、ちょっといつもよりご馳走でした。」

「ケンウツの先生4人、何かあったらその先生方を呼ぶの。〔例えば〕呼んだ先生が簡単なセンテンスを言われる。隣の人に、また隣に、隣に伝言、あの遊び、あれを英語でやるの。先生と密接な関係が昔からのしきたりでしょうね。だから基本的に英語が多少ともできないと舎監務まらないと思うよ。」

「中高部の先生方は1週間に1度、夜、ご飯に招待しました。人気のある先生ばっかりになっちゃうのよ。今週誰呼びたいですかって投票させるわけ。1学期に3べんぐらいになる先生もあるけれども、それは提言しました。1人の先生に偏らないようにしましょうね言って。先生うっとうしいからイヤって子もありましたけどね。来ていただいて、夕ご飯一緒に食べて、その先生のスピーチがあって、皆で送り出して。そういうの。」

### ・寮生活のマニュアルを作る。

「入舎の日が入学式の前の日だったかな。入舎するときからの生徒のマニュアル。部屋はね、寮長と副寮長と私で部屋割り決めるんです。それで、まず寮長と副寮長は前の日に帰ってきて部屋に名札をかける、とかね。そのマニュアルを辞める日まで1年間全部書いたの、私。毎日すること、何日に先生を呼ぶために、次は誰にしましょうかって皆で相談して投票させるとか。そういうマニュアル全部書いてね。そのほかに私、自分で日記つけてました。日記ってたいした日記じゃないの。今日は誰と誰が発熱、欠席。誰が電話、とか。」

### ・寮のルール。

「〔上級生が下級生を〕指導するの。そういうのが癖。」

「寮生活がどんなものかわからなくて入ってくる子がたくさんいるわけでしょ。」

だからいきなり新米が上級生にしごかれるのを見ててかわいそうでしたけどね。

1年たったら次の子がするでしょ。まあとにかくきっちりしてましたね。」

「行儀作法は上級生が厳しいですからね。ものすごく礼儀やら人の呼び方もなんか階級制度があって、誰々ちゃんって呼ばないで、誰々さんって呼びますね。ニックネームがそれぞれあるんですけどね。だから行儀は良かったんですけどね、やっぱり見てなかったら、ご飯食べるときに〔テーブルに〕足乗せたりしてお弁当食べてる子がいますからね。そのときは私言いたくないけど、たまに目に入ったら『お行儀悪いよ』という程度にしかよう言わなかったです。」

「私、ある程度はこういう生活したらいいなと思って。お台所の使い方なんかでも昔からの〔伝統で〕、元々は外国人が教えていたんでしょうけど、すっごいきれいですよ。〔上級生が〕もう厳しくて、新米から台所始めるの。」

「私嬉しいのは、人懐っこい子っていうのか、そういう人が何人か未だにお盆やお正月やらに来てくれたりするの、子どもさん連れで。多いとき、5人ぐらい泊まって行ったりしますけど、最近私はちょっとご飯のこととしてやれませんが、その人たちが『私します』とか言ってしてくれたあと、私がしたよりきれい。流しに水いっこも落ちてないよ。『台所ペーパーありますか』っていうから『ある』いうたらそれで拭くわけ。次使うのもったいないくらい。それはね、その子だけじゃなくて、その癖ついてますから、おそらく家庭持っても今そうやってるでしょうと思いますよ。だからね、そういう意味で。」

「お風呂もね。お風呂当番っていうのがあるのね。かなり大きいお風呂でしたよ。大きいといってもステンレスとかじゃなくて真四角のタイルの途中に座るところあるから、普通の家庭みたいにお尻を床につけられない〔位〕深い、4、5人はいれる。それで私が1番最後なの。しかしね、入っちゃいけない日もあるわけでしょ。〔その日を〕お呼ばれっていうの、その人たち。なぜかという、今日お呼ばれしてください、と書くものが置いてあった。2、3人いるわけね。それでその人たち最後。で、そのうちの誰かが最後済んだら全部〔お湯を〕抜いて、一応バーツと水かけて、新しく入れ直してくれるわけ。それでその子が私にトントンとノックしてね、お風呂どうぞと言いに来てくれるの。」

・生徒たちのエピソード。

①先生を試す。

「生徒が賢いですからね、『先生これはこうしてください、こうしてください。』で、〔食事のとき〕先生がいただきますって言って、誰かが変わるばんこにお祈りして。私がいただきますって言わないと皆お箸なりスプーンなり取りませんって言うからね。試されたときもありますよ。今度の先生はゆで卵をどうやって剥くかということ。皆が賭けてたらしいけれども。私はデフォレスト先生のところに、昭和二十何年かなあ、2週間ほど預けられたことあるの。夕食後のピアノの伴奏までさせられた、一緒に歌歌ってね。食べ方、ベッドの作り方も。まだ20歳くらいで、逃げて帰ろうと思ったこと何べんもありましたけどね。で、その時に卵をたたいて、スプーンでするというのを習ってたから、その通りしたらね、『先生、誰に聞かれましたか』て。バナナのむき方のときも皆チロチロ見てたけども。それはまあ適当に剥いて、ナイフで〔切りました〕から。大分試されましたけどね。」

②いろいろな子どもたち。

「帰国子女はしっかりしてましたね。先生電話貸してくださいって言うので、どうぞって言って。旅行会社に電話してるの、一人でよ、15、6の子が。親が切符取るんじゃないくて〔自分で〕。」

「人知れずしんどくて涙した子もいますけどね、私等の知らないところで。淋しくて。」

・寮の改革。

①消灯時間延長。

「私だいぶ制限緩めた。事後承諾で。消灯10時半は中高生にとったら可哀想。勉強する暇が〔ない〕。だから11時に伸ばしました。」

②寮は暗かった。

「時々お風呂のぞかれたりしました。あるとき警察が回ってきてね、女学院も時々痴漢が出るそうです言うて。これはあきません言うの。寄宿舎長かったでしょ。玄関に電灯あるだけ〔だった〕。ここ全部真っ暗だった。夜いらっしゃ

らないでしょ、先生っていうのは。昼間しかおられないでしょ。だからこんなに暗いということを知らない。おまけに洗濯物なんかもしょっちゅう盗まれてたらしいの。で、それ言ってね、その頃の総務部長やってた人がすぐ見に来てくれて。でも、電灯つけてからなくなりました。」

③お風呂にはシャワーがなかった。

「シャワーがあったら、結局経済的じゃない。頭だけ洗える子もいるしね。それでシャワーつけてくださいって言った。」

④和式トイレしかなかった。

「帰国子女なんかがあれを嫌がったんですわ、和式のトイレを。全部和式〔だった〕。来客も来ますし、外人さんも来たときに使うからいくつか改造してくださいって言ったらね、生徒用は5つか6つあったけど、半分くらい洋式に。それから玄関用の私が使うのも洋式にしてくださった。」

⑤トースターが1つしかなかった。

「Mの席言うたんかな、私が座るの。そのテーブルにトースター1つしかなかったの、私が入ったとき。皆生で食べるか、私達のテーブルが済んでから焼きに来るか。学校に言ったの。そしたらたちまち7つ、その年に。生徒の数によって違いますけど、多いときで6人ずつくらい座って、5つ6つテーブルがありましたからね。」

⑥塾通い。

「最後はね、塾を許しました。せっかく中高部に入ってるのに上へ行かないっていうのがだんだん問題になり始めた頃。私もはじめは嘆かわしいなと思ったけどね。1人2人受験のために寄宿舎から出た子もいますけど。全員上に行くとは決まってない頃でしょ。そうするとね、よくできるから行く必要ないんだけど、学校の友達が皆行ってるのに、私も行かなきゃっていうのですね。その代わり、必ず帰りは西宮北口からタクシーに乗ること、という約束でね。3、4人行きましたけどね。」

・舎監として困ったこと。

「北寮の方はそうじゃなかったですけど、東寮だけはね、昔から今日から休み



言うことで。やっぱり難しい仕事でしたね。思春期の子どもさん、それに私は男の子しか育ててないので、男の子の感覚で母親業してても、女の子は難しかったです、ちょっとね。家から離れているし、規則に縛られるし。」

• 寮のルール。

「〔寮の規則は〕昭和初期に作られたままだと思いますよ。それでずいぶん変えるようにいろいろ試行錯誤して努力したんですけどね。」

①自転車禁止。

「学校の方は安全第一ということを考えるから。」

②日曜の朝は外出禁止。

「日曜の朝ね、教会以外は外出してはいけなかったです。午前中12時まで出たらいけないんです、寮から。それで5時半に夕拝があったかな。それに間に合うように帰ってこないといけない。そうすると、寮生ってやっぱり買い物とか何か用事あるんですよ。それとかちょっと遊びに行きたいとか。その間が4、5時間しかないんですよ。朝の礼拝、教会行かないんですよ、もう皆。昔は皆曾木〔喜久〕先生に連れられて甲東教会まで行ってたらしいですけど。私も行くときは何人が声かけて、ついてくる子もいましたけど、ほとんどの子は教会へ行かなかったですね。だから結局、行かないんだったらじっとしてなきゃいけない。勉強しているとか寝るとか、まあ静粛の時間なんですよ、その間も。日曜日、生徒の方にしたら、教会行かないんだったら寮にいなきゃいけないっていうと禁止みたいな感じを受けてしまうけども、昔はそれでよかったんでしょうけどねえ。今の子は外に何か求めるものがたくさんあるし、それを窮屈に感じて。もうちょっと自由にできないか中高部のほうで〔検討してもらったけど〕ダメでしたね。」

③夕拝。

「夕拝は日曜と水曜の2回あるんです。当番制でやっていて、メッセージとかはなくて讃美歌と聖書だけ〔のときも〕。時々私が感話をちょっと入れたりしましたが。それと連絡事項ね。で、水曜日には先生を交代で



お呼びして、それで夕拝していましたね。先生をお呼びするのは皆楽しみで、いろんな先生と親しく交わって、先生のお話も聞けるし。〔先生は〕毎回いらしてたんじゃなかったです。」

#### ④伝統のお掃除。

「ガラス磨きとかお掃除、大掃除とかそういうことがものすごく厳格だったんですよ。大掃除っていうのが学期中半と学期末にあるんですよ。ガラスも顔が映るほどピカピカにしないとイケないんですよ。それが伝統でしたよ。私も行ったときに床がピッカピカなんでびっくりしました。昔流で、新聞紙ぬらしたものを撒いて、それを箒で掃いて。普段は朝から〔掃除〕。起床のチャイムが鳴るんです。そしたらすぐ起きてきて、さーっとまるで兵隊みたいです。6時半から掃除。トイレまで。すごい走って。走らないと上級生に怒られるような、まるで体育会系でしたよ、私行ったときね。」

#### ⑤食事当番も伝統のやり方で。

「食事当番は、部屋に1人いて、うまく割り当てられてて、その人が〔掃除で〕抜けてもできるように、チームで。このチームは、今学期はトイレ、このチームは今学期玄関とか、そういう風に決められてて、その中の1人は食事当番で行くようになってるんですよ。それで食事取りに行って、用意するのも走らな怒られるんですよ。何でもさっさとやれ。洗い物もその食事当番がきれいにやるんです、流しもピカピカ〔になる〕まで。伝統でしたね。」

#### ⑥食事のマナー。

「塾に通う子はご飯は帰ってからっていうのが多かったですね。塾行っている人はちゃんとラップかけて置いて、静粛時間〔7時から11時〕中に帰ってきて自分で食べて洗うっていうことでしたね。クラブで遅くなりましたっていうのも一応 excuse があるんです。学内の場合は、遅くなって皆もう食事始まってるときは、私のところへ『クラブで遅くなりました』って挨拶に来て。そういう習慣でした。食べてるとこへね。」

⑦部屋替え。

「学期に一度してました。寮長と副寮長が大体やってました。曾木先生が専任の舎監じゃなかったから、多分あの頃から何でも生徒たちに任せていたんじゃないですか。」

・寮のお楽しみ。

「七夕パーティーは東寮でやって、ハロウィンパーティーはケンウッドでやって、毎年のケンウッドとの交流行事でした。クリスマスパーティーは学校の先生方どなたかをお招きして、フェアウェルは卒業した人を送るのにやっぱり学校の先生も何人かお呼びして、そういうのは寮生のお楽しみでしたね。全部自分たちで上手にやってましたよ。お料理は池田さんとこで作ってもらってましたけどね。夕食を庭で一緒にいただいて、おそうめんとか。ハロウィンのときはね、先生方がお菓子を焼いてくださったかなんか、そんなんでした。皆仮装してケンウッドまでチリンチリンって音出しながら行く。それで先生方がお菓子をくださって、向こうでゲームしたりして遊んで、それが楽しかった。クリスマスパーティーとかフェアウェルパーティーとかでやるゲームも、なんか伝統的に決まってたみたいです。」

「楽しかったのはね、寮の前にびわの木が1本あったんですね。それが校内で一番甘いびわができる。東寮の特権で、びわがなると収穫して、静粛時間中に『びわが取れましたので、お部屋長さんは取りに来てください』って言って寮長が放送するんです。皆学院の方が優しくて、施設課の方なんかも寮生が取るまでは取らない。」

「いろんなことやりましたよ。同窓会館の前のゆすら梅から実を取ってきてジャムにしたりね。筍ほりにいった子もいます。お料理とかお菓子作りとか皆好きでね、はまってる子もいましたよ。ある年の卒業生がお菓子作りの道具を寄附してくれたんですよ。東寮にもキッチンがあって、洗い物するのは東寮でやるんです。配膳コーナーも流しもあるし、ガスもあるし、オープンもある。私も試験のときはね、生徒が使うからその隙間を縫って使わないといけないんだけど、お菓子を焼いて部屋へ持ってってあげました。ご飯が残るとおにぎり

にして寮長に言うと、寮長が放送して『先生がおにぎりを作ってくださいましたので』とか言って、皆が取りに来るんですよ。静粛時間、勉強してなくてもいいんですよ別に。だから勉強ない子がお菓子作ったりしてました。でも、あんまり部屋にいないと部屋長が注意したりしてましたね。勉強全然してない、とか言ってね。」

## ・寮の改革

### ①門限を伸ばす。

「門限、5時半だったんですよ、私の行ったとき。すごい締め付けと感じましたね。それを30分伸ばすのに1年懸かりました。中高の〔教育の〕一環なので、中高教職員会に一応議題として持っていったものだから。やっぱり〔生徒を〕預かっているから、学校の方はなるべく安全にということを優先するから。」

### ②テレビを増やす。

「今テレビの時代で、その頃20から30人にテレビが1台しかなかった。やっぱり見たい番組があるから、生活の中の規則の中で要望が強かったから、静粛の時間でも何か条件を設けたかどうかだったか。それを何とか他の人の邪魔にならないように見るということで。別館というのがあったんですよ、そこにテレビをもう1台どっかからもらってきて、人の邪魔にならない時間に見たい番組を見られるということにしたり。1人何時間までとか条件をつけたかどうかちょっと忘れちゃったけれど。そういう細かい変更はずいぶんしていましたが、大きなのは結局門限を変えたぐらいじゃなかったでしょうかね。」

・現場にいると生徒たちが余りに型にはまりすぎていて、窮屈で可哀想だということをずいぶん感じた。

「〔自由にするっていうことは〕とっても難しいことで、だんだんやっているうちにあの集団生活というものの規則の中で、規則がある集団だからできる教育力というものもあるんだということもわかってきたんですけどもね。」

### ・阪神淡路大震災のとき。

「火災とか防災とか訓練してて、寮の後ろを通ってグラウンドまで避難するという訓練をしていたんです。それが役に立ちましたね。その通りにやりました。」

舎監室は棚がドアに倒れちゃって、そこから出るのにもすごく時間がかかるような状態になったんです。そしたら生徒の中には窓から飛び出す子もいたらしいんです、あとで聞いたら。それと、天井から「瓦礫が」落ちてきて布団の上に破片とかいっぱいあったり、いろんなことがあったけど、部屋長っていうのがいて、普段は部屋の中で主に皆を見てる役、だからそういうところで皆しっかりしててね、あの頃の同窓会誌にも書いてありますけれども、すごくそういう普段の訓練が「しっかりしていた」、寮生は。一条乱れずという感じでしたね。私が出る前にちゃんと集合場所に、もう外に出て、しっかりしていました。

　　| そのとき、皆しっかりしてましたけど、特別しっかりした寮長だったから安全に逃げました。」

・震災後、廃寮になるまで。

「震災の後が大変でしたね。家を失ったわけだから。大学の方も北寮もつぶれちゃって、南寮と新寮だけが残って。大部分の人はワンルームマンションとかそういうところへ。どうしてもない人だけを収容するのに精一杯で。はじめはどうしても東寮「の人」を受け入れられるスペースはないっていわれてしまったんだけど、中高部長の交渉が功を奏したかなあ、12人だけ新寮の一角だけ空けてくださることになったんです。」

「はじめは皆、東寮は教育寮として歴史があるし再建したいという気持ちがあったんですけど、実際、なんていいますか、舎監一人抱えて、人数は転勤の人と帰国子女だけで2、30人。震災後にそれこそ経営的に自分等の手に余ることがわかったんです。教職員会の判断で、これはもう、ちょっと手に余るなってことになって、3年ぐらいで、もう続けないうということになったと思います。そのことにとっても寮生は反発して、どうしても寮は置いて欲しいって。でも現実にも目を向けたら、あの復興のときのことで、経営的に無理だったんじゃないでしょうかね。再建してそれだけの「ものを」維持していくって。方法はあると思ったんですけどね。でもちょっとその意見は通らなかったですね。」

・寮生にとって寮は特別な存在。

東寮を取り壊すとき、寮生に思い出の品が欲しいといわれたが、渡すことがで

きなかった。

「私行ったとき、寮に対する不自由さとかそういうことを言ってくる方が多いし、不満の方がたくさん聞こえてきたんですけれども、やっぱり寮生にとっては忘れられない集団生活だね。寮生活は、友達と一緒に仕事をして勉強をして同じに暮らして、ちょっと我慢をしながらもいろんなことを覚えた。その寮生活というものはものすごく生徒にとっていいものだったみたいですね。だから絶対無くして欲しくないっていう〔思い〕はすごく強かったですよ。」

「寮生にとったら、教育の場として本人たちは捉えてたってこと、そう捉えて育ってたんでしょね、自然に。」

・最後に。

「教育寮〔として〕特に〔何かしたということは〕ない。夕拝でちょっと話をしたり、そういうときにはやっぱりキリスト教的な生き方っていうかそういうことは聖書の話とかを自分なりに交えてして。姿勢として私も女学院出身ですから、人に仕えるっていうか、そういう精神がこの学校の伝統の精神で、それは大事にして人を思いやる人っていう、そういう伝統は一応ね。

それがうまく伝わったかど

うかわかりませんが。ただ学校教育の成果、〔外部に〕進学した子がね、一流大学の看護学科なんか選んでるんですよね。確かそうなんです。皆進学先が、賢い子でもね、やっぱり奉仕の。なんていうか女学院の宗教教育がどっか水面下で生きてるなっていう感じはしましたね。それと震災の後、自分たちも被災したんだけど、外出の許可で震災のボランティアで幼い子供の面倒を見たりする。高2くらいで行ったりしてましたよ。嬉しかったです。こうしなさい、なんっていうことはなく、自発的に。それは学校の教育でなんとなく水がしみこむように自然にしみこんでいるのかもしれないね。だから私は、偏差値で人の上に立つことを価値とする、そういうんじゃないくて、何か女学院のそういう精神が、すごく反発しているような子でも染み付いている。教育が無駄になっていないなと思いましたね、学校自体がね。だからその中の一環であったから、寮も。」